

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700047		
法人名	エポックワン有限会社		
事業所名	グループホームこもれび下松		
所在地	下松市古川町1丁目5-5		
自己評価作成日	平成25年3月12日	評価結果市町受理日	平成25年10月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は苑内で調理したものを提供し、時々利用者が調理、盛り付け、片付けに参加できるようにしています。入浴は本人の希望により毎日でも入れるようにしております。 室内では利用者と一緒におやつ作り、掃除、洗濯物干しなどを行い有する力が発揮できるようにしています。天気の良い日は散歩やドライブを取り入れ、地域の行事にも参加するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月発行する事業所だよりを、利用者本人が馴染みの商店や理美容院、知人に届けられたり、自治会長や民生委員、病院や訪問看護など地域の関係者に配布され、事業所への理解を深めてもらうなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように、事業所自体が地域の一員として日常的に交流されています。厨房に専従職員を確保されることにより、職員が利用者に関わる時間ができて、1日に2回(10時からと16時から)、利用者一人ひとりの希望に添って、散歩や花壇の世話をされる他、馴染みの場所へのドライブなど、戸外に出かけられるよう支援に取り組んでおられます。レクリエーション委員会、排泄委員会、事故防止委員会、行事委員会など4つの委員会を立ち上げられ、サービスの向上や充実につなげておられます。看護師の資格のある職員を配属され、医師との連絡調整が図られ、利用者一人ひとりに応じた服薬管理や健康管理に関わることで利用者、職員の安心感につながっておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフと一緒に作った理念を掲げている。	職員全員で話し合い、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくっている。職員の異動があり、職員一人ひとりが理念を理解し、共有して、実践につなげるまでには至っていない。	・理念の共有と実践
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、年一回の総会にも出席している。入居者、ホームが利用する商店、美容院等に毎月入居者自身がホームの新聞を配っている	自治会に加入し、総会に職員が出席している。毎月1回発行する事業所だより、利用者が馴染みの商店や理美容院、知人などに持って行き、手渡しして地域との交流する他、自治会長、民生委員など地域の関係者にも配布し、理解を深めている。ボランティアとの交流や学校の運動会やお祭りなど地域の行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習、見学などの要請があれば受け入れるようにしている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を職員の見えるところに掲げたり、伝えたりしているが、職員と一緒に取り組むまでには至っていない。評価もいかされていない	管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解している。全職員で自己評価に取り組むまでには至っておらず、評価も活かされていない。	・評価の意義の理解と活用 ・全職員での自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催している。活発な意見は出ないが、出席者の意見を聞き、サービスにつなげようとしている	隣接するマンションの住民や店舗関係者など、新たに地域の人々の参加を得て、2カ月に1回開催している。利用者の状況や活動報告などをして、意見交換し、意見をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事は聞くようにしている	市担当課に出向き、事業所の実状を伝え、疑問点等を相談し、情報を得るなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。身体拘束に関しては、具体的な行為や緊急やむを得ぬ場合などを職員に伝えている	職員は、研修で学び、身体拘束について正しく理解している。事業所内に事故防止委員会を設置し、事故防止と身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で職員同士が互いに注意を払うようにしているが、虐待について職員が周知するまでには至っていない		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1度権利擁護について数人の家族を含め市の職員に話をしてもらおう機会を設けたが、殆どの職員は理解するには至っていない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する時点で身元引受人に説明をしている。改定の際には文書にて通知し、疑問には答えるようにしている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当を設け、契約時に家族には説明している。相談、苦情には早めに対応するようにしている	苦情の受付体制や処理手続きを定め、利用者や家族に説明している。家族の面会時や電話など意見を聞いている。職員の気になる行動はその都度注意し、苦情につながらないように配慮している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に要望が出たとき、又は入居者のケアに関して改善、アイデアなどがある場合、いいもの叶えられるものに関しては反映している	ミーティングや日々の業務の中で意見を聞く機会を設けている。要望や意見を、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況などを会社側で取り入れるようにしているが、職員が向上心を持って働けるまでには至っていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	働きながらヘルパーの資格が取れる制度を 取り入れている。基礎研修が受けられる機会 も設けた	外部研修は情報を伝え、段階に応じて受講 の機会を提供している他、地元大学と連携し た法人研修等で学ぶ機会を確保している。資 格習得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	年1回ではあるが、市内の同業者との親睦会 を通じて交流する機会を設けた		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は職員1人がつくなど不安を少しでも軽 減できるように努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	申し込み時、契約時などに要望を聞き、プラ ンに反映するよう努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	何が必要かを見極め、本人、家族、医療機 関など必要に応じて取り入れるようにしてい る		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の有する力を見極め、その人にあつた 力が発揮できるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	医療機関の受診など一緒に本人を支えるよ うにしている。月1回のホームの新聞の送付 や事故、状態の変化など家族に伝え、離れ ていても繋がっていられるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつも言葉にしていた入居者の故郷に行き、知人に会う機会を設けた	馴染みの店に買い物に出かけたり、知人や友人に事業所だよりを持参する他、家族の協力を得て、外泊、外出、馴染みの美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の現在の状態や入居者同士の相性をみて席の配置や散歩に行く相手を考えている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全員ではないが、入居者本人の写真を綴ったものを渡したり、遊びにきてもらえるように声をかけたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの希望や意向は汲み取るようにしており、入居者の中には叶えられていることもある。行きたい場所、以前のかかりつけ病院受診、食事会、喫茶など。	日々の関わりの中での言葉等ケース記録にを記録して、思いの把握に努め、職員間で共有している。困難な場合は、表情やしぐさから汲み取り、本人本位に対応している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報やホームで生活する中の会話などで把握するようにしているが、それは入居者の一部であり、職員の中でも意識して努めているのも一部にとどまっている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の行動パターンを把握し、心身の状態にも目を向けるようにしている。有する力も把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望は聞くようにしている。入居者一人ひとりに担当職員を決め、新しく出した課題など取り入れるようにしている	本人や家族、主治医の意見を参考に、職員間で話し合い、介護計画を作成している。利用者の担当職員が3ヶ月毎にモニタリングを実施し、新たな課題や現状を把握しており、状況に変化が生じた時はそのつど見直しを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等の記録に加え、健康管理としてバイタル、食事量、水分量、排泄などを記録し、介護計画にいかしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームかかりつけの医師と連携をとり、体調不良時の往診や総合病院への紹介などに結び付けている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店の利用、ボランティアにきていただいている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医をどうするかを決めている。ホームのかかりつけ医以外の場合、状況を伝える為近況を文書などで伝えている	協力医療機関をかかりつけ医とし、毎月1回往診がある他、その他の専門病院の受診は、家族の協力を得て支援し、受診結果や服薬管理についての情報を共有して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と連携をとりながら支援している		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほぼ月1回又は2ヶ月に1回総合病院の地域連携室に行き関係作りをしている。入居者が入院、退院時に情報が得られるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はかかりつけの医師、家族、管理者、看護師で今後の経過、対応について話すようにしている	重度化や終末期の指針があり、契約時に本人や家族に説明している。重度化した場合は家族や職員、主治医等と話し合い、方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止委員をもうけたり、マニュアルを作成したりしている。救急法を取り入れたりしているが、実践力は身につけていない	ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、事業所内の事故防止委員会で検討して、月の目標を掲げ、事故防止に取り組んでいる。消防署の救急救命講習会やAED講習会などを受講しているが、事故発生時に備えた初期対応の訓練は不十分で、実践力が身につくまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消火訓練、通報訓練は実施している。地域との協力は得られていない	年2回昼夜を想定した避難訓練、消火訓練、通報訓練を利用者と一緒に実施している。地域の協力が得られるように隣接するマンション住民や店舗などへ働きかけているが、協力関係を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目立たずさりげない言葉かけや対応にかけている。	職員は、人格の尊重やプライバシーの確保について理解しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	シグナルをキャッチしようと努めてはいるが、職員の入居者の特徴を読み取る力がそれぞれであり、介護場面でいかせていないときがある		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のスケジュールに合わせている面がある。希望に沿って支援したいと考えているが、汲み取る力、言葉に出さない入居者へのペースを考える必要がさらにある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほぼ自立している入居者にはできているが、介助が多くなる入居者ほどその人らしいおしゃれからは遠ざかっている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員1人は入居者と一緒に食事をとっている。準備や片付けは1部の入居者が時々参加している	法人から届く食材を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえ、調理、配膳、片づけなど一人ひとりのできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。おやつづくりや外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分量がある程度確保できるようにしている。飲み物は色々なものを提供し、少しでも水分が摂取できるようにしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した人、見守りの人、又介助を要する人はその人に合ったそれぞれの口腔ケアを行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握するようにしている。排泄委員会をおき、その人にあったオムツ等を検討し、コストの面からも家族に負担がかからないようにしている。	利用者一人ひとりの排泄支パターンの把握に努め、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、なるべく自然排便できるようにオリゴ糖、ファイバー、きなこ牛乳などを取り入れている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間はおおむね決まっているが、曜日等は決まっておらず、入りたい人は毎日入れるようにしている	毎日14時から入浴が可能で、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむことができる支援をしている。入浴をしたくない場合は、声かけの工夫や職員を交替したり、タイミングを見図るなど工夫して、入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休憩が取れるようにしている。全介助の入居者も寝かせきり、座らせきりにならないようにしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り、処方箋のコピーをはさんでいる。職員誰もがみれるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	有する力は発揮できるようにお願いできる仕事を見極め頼んでいる	テレビを観たり、洗濯物を畳んだり、調理、おやつづくり、ゲーム、レクリエーション、歌、カラオケを楽しむ、事業所だよりを知人に届ける、散歩や花の水やりなど、楽しみごとや活動できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れるようにしている。全員ではないが、散歩、ドライブは日常的に取り入れている。	厨房職員の専従により、午前と午後、利用者と職員と一緒に外出する時間ができ、散歩や花壇の水やりなど戸外に出かけている。季節の花見、地域のイベント、初詣、イルミネーションの見学など利用者一人ひとりの希望にそって出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームでは預からず、持ちたい人のみ持てるようにしている。機会は少ないが、買い物に行った時、希望で病院受診をした時など個人的に関わった時のみ使えるようにしている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている人は自由に電話できる。ホームの電話を使うときは、家族、知人など頻度、相手により話をしてもらう時もある		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りつけ、季節、行事にあったおやつなどを取り入れている。音楽も入居者が好きな歌手、音楽を取り入れ流すようにしている	共用空間は明るく、食卓に季節の花を活け、台所からの音や匂いは五感を刺激し、季節感や生活感を感じることができる。居間のソファに座って日光浴をしたり、ベッドで横になったり、利用者は思い思いに過ごしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファ、畳、廊下には長いすなどを置き休憩、場所の移動な自由にできるようにしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は今まで本人が使っていた馴染みのものを持ってきてもらうよう家族に話している	使い慣れたベッドやテレビ、ポータブルトイレ、机、椅子、洋服、パイプハンガー、姫鏡台、ぬいぐるみ等、使い慣れたものや好みの物を持ち込んで利用者が居心地良く過ごせる居室づくりの工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒しないような空間作りをしている。		

2. 目標達成計画

事業所名： グループホームこもれば下松

作成日： 平成 25 年 10月 18日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	15	事故防止委員会を設けたり、救急救命講習会などを受講しているが、初期対応が不十分である。スタッフのメンバーが入れ代ることにより、実践力を身につけることが更に難しくなっている。	今までの事故防止の取り組みを続け、応急手当や初期対応ができるよう実践力を身につける	事故防止委員会で引き続き事故がおきないように検討したり、救急講習会を設け、応急手当やAEDの使い方を学ぶ	6ヶ月
2	16	火災の訓練は年2回実施しているが、新人職員を交えての訓練が出来ていない。地震、水害等を想定しての訓練が出来ていない。	火災、地震、水害の避難方法を身につける 地域との協力体制を少しでも築く	災害対策のマニュアルを作り、訓練をする	6ヶ月
3	1	メンバーが入れ代り、事業所の理念が何かを知らないスタッフもいる。掲げてはあるが、理解はしていないスタッフもいる。	理念を理解し、実践につなげる	理念を伝え、どう実践するかを考えてもらう	3ヶ月
4	3	評価の意義を理解しておらず、活用できていない。	評価の意義を理解し、活用する	自己評価を全職員で取り組む。評価を振り返り見直していく。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。